

皮膚科	
診療科目：皮膚科一般、膠原病、接触アレルギー、脱毛症、皮膚悪性腫瘍、薬疹、遺伝性皮膚疾患など	
診療科担当研修責任者名： 阿部 理一郎（皮膚科診療科長） 診療科連絡先担当者名： 林 良太（皮膚科エデュケーションマネージャー）	
受入期間：1ヶ月以上	同時受け入れ可能数：3人以内
◇◇学会認定専門医数◇◇	
皮膚科専門医12人	
◇◇学会認定指導医数◇◇	
皮膚科学会認定指導医5人	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴
新潟大学の前身である新潟医科大学時代からの伝統をもち、新潟県の皮膚科診療の中枢を担っている。皮膚疾患全般を診療の対象とし、高次皮膚科診療施設として難治あるいは重症皮膚疾患患者を多数受け入れているほか、多岐にわたるサブスペシャリティを持ち、各種専門外来を設けている。膠原病外来ではエリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎の治療、リンパ腫・薬疹外来では、菌状息肉症をはじめとする皮膚リンパ腫や重症薬疹を含めた薬疹患者の治療、精査を行っている。遺伝性疾患外来ではほぼ全ての遺伝性皮膚疾患の遺伝子解析、治療に対応しているが、特に遺伝性毛髪疾患に力を入れている。腫瘍外来では皮膚腫瘍全般の治療を行い、新潟県内全域の患者を受け入れている。アトピー外来、乾癬外来では治療に加え生活指導も行い、特に生物学的製剤を要する重症患者の多くを当施設で治療している。 当施設では新潟県内の様々な皮膚疾患患者の診療を行っており、皮膚科領域全体をカバーする研修が可能である。	卒後臨床研修では多彩な皮膚疾患の診療を理解するため、原則として午前中は新患外来および外来処置、手術室で研修を行い、希望により各種専門外来での研修や中央手術室での研修も行う。午後は病棟主治医グループの一員として研修を行う。皮膚腫瘍を対象とする専門グループと、他疾患全般を対象とする一般グループから希望により選択でき、複数グループの研修も可能である。さらに症例検討会（週1回）で高度な臨床および皮膚病理組織診断の現場を体験できる。 専門研修では皮膚疾患全般に適切に対応できる診療能力を修得し、全人的医療の実践を目標とする。新潟大学医学総合病院とその関連病院で研修し、5年目以降に日本皮膚科学会認定皮膚科専門医を取得した上で、サブスペシャリティに応じた各種指導専門医（現在、皮膚悪性腫瘍指導専門医と美容皮膚科・レーザー指導専門医がある）の取得を目指す。専門研修ならびに生涯教育のための充実した学術環境として、伝統ある日本皮膚科学会新潟地方会がある。大学院へ進学し皮膚科関連課題の研究による学位取得も可能であり、取得後の海外留学も盛んである（海外留学の希望は最優先させている）。卒後10年目以降は、大学病院で後輩の指導と研究を行い教員を目指すコースと、関連病院で指導医として研修医や若手皮膚科医の指導にあたるコースがある。